

## 第4回 大門まちづくり共創会議

日 時：令和7年9月25日 18時00分～20時00分

場 所：塩尻市市民交流センターえんぱーく 多目的ホール

参加者：別紙一覧表のとおり

次 第：①開会

②あいさつ（大門五番町区長 事務局茂樹さん）

③グループトーク

(1)グループで意見交換 (2)グループの意見を発表

④アンケート記入、閉会

### ——以下、各グループのディスカッション内容の発表——

#### ■Aグループ「人や商店のつながりを作る活動」

- ・高校生がどのように思っているのか、何を欲しているのかを対面で吸い上げたいと考えている。
- ・上記と並行して、えんぱーくやウイングロードに意見を書いて気軽に入れてもらえるリクエストボックスを設置したいと考えている。
- ・この2点の実現に向けて、先生に協力依頼や、えんぱーくやウイングロードにリクエストボックスの設置の協力依頼というステージに向けて取り組んでいく。

#### ■Bグループ「多世代交流・居場所づくり」

- ・前は、あくまでもプレストとして様々なアイデアを出し合ったが、今回は、実現性を考慮したアイデア出しを行っている。前回、カフェや子ども食堂といったアイデアが出たものの、いきなりそこを目指すのではなく、スケールを少し小さくして、実際にできそうな取組から始めてみようという話になっている。
- ・現状の塩尻は、なかなか人が集まらない状況にあり、例えば、キッチンカーを呼んだとしても、その時は人が集まるかもしれないが、一時的なものになってしまう。そこで、まずは人が集まる仕掛けとして、ベンチや腰掛をまちの中に点在させてはどうかというアイデアが出ており、使えそうな場所には、ウイングロードの前や秋葉神社等が挙げられている。いろどりがあって、人が集まれる場所を作ることができれば、将来的には、カフェや子ども食堂といった、前回出てきたアイデアにもつながってくると思う。
- ・後半は、前半の議論でもあったように、将来的に前回出たようなアイデアにつなげるためにも、少しハードルを下げた取組の実行に向けて議論した。
- ・資金をどこから調達するか課題であったが、県の補助金の活用や企業の協力を募ってはどうかという意見が出た。また、活用したい場所についても、相談する相手先が分かりそうだということが確認できた。最終的には、出てきたアイデアを企画書としてまとめ

ようという話になっている。

- 高齢者にとっても、子どもや子どもを連れたお母さんにとっても、居たくなる場所をつくるという発想から、「座る」をテーマに議論した。実行に向けての一番のハードルは、やはり資金面だったが、例えば、長野県の地域発元気づくり支援金は、今回の趣旨に合致しそうという話になり、“ずく”を投下して、1月末の締め切りまでに企画書を作成してみようという話になっている。(青木)

#### ■Cグループ「歩きたくなる仕組みづくり」

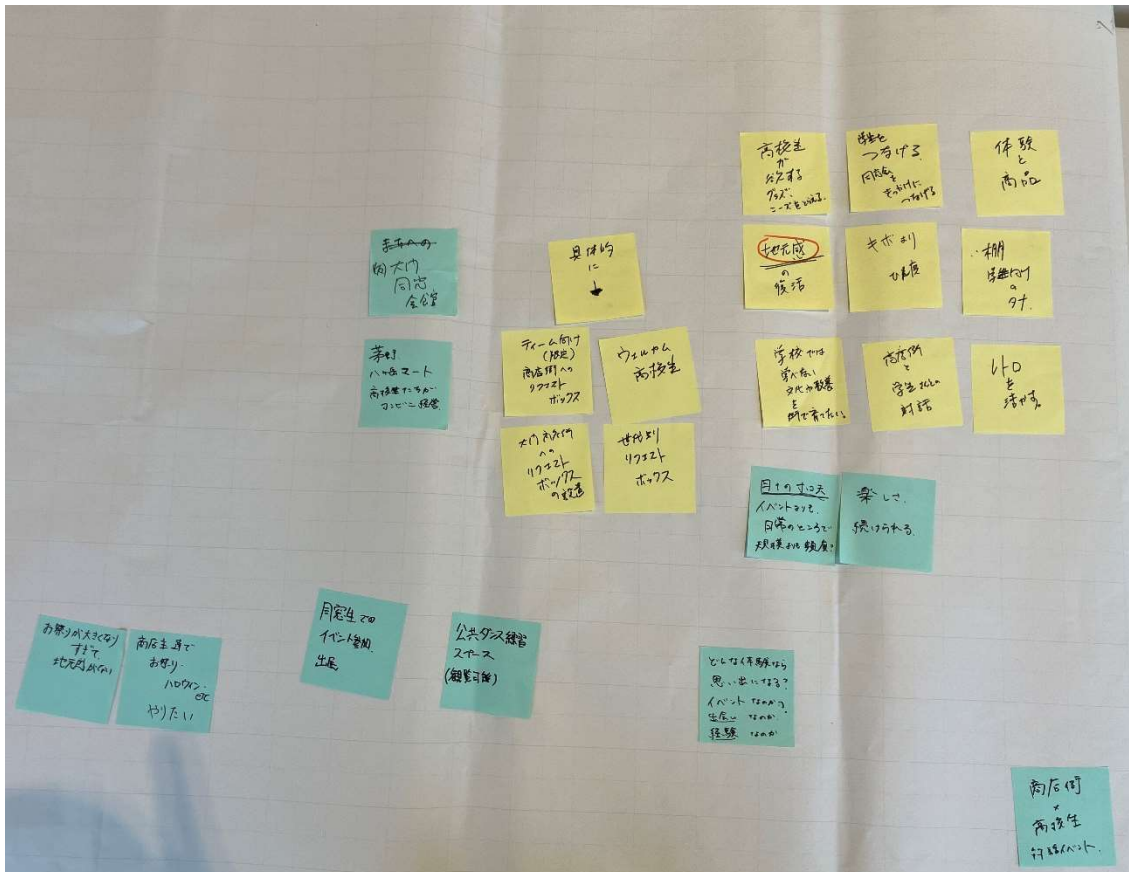
- 商店と道活用を掛け合わせる方法を考えている。今出ている案は、お店の前でみんな一斉に水撒きをするなど。
- 日常的に人が滞在する仕組みとして、ベンチが有効なのではという話になった。
- そういう面白い仕掛けを1つではなく、複数作ることが大事。一つだけのプロジェクトをやっていくのではなく、まち全体で連続性のある仕掛けをいくつも作っていくということを意識して話している。
- 商店街について話しているが、まちへの理解や解釈が人によってばらばらなのではないか。ということからみんなで街歩きをして、全員で共通の街への理解を持ってみようという話になった。
- 使える場所、人がいる場所、買い物ができる場所など。テーマを持ってみんなで街歩きをして、まちの像を共有していく。
- そこから次のアクションの案が出てきたり、それが実現できるか否かの話し合いをできるようにするのではないか。
- 他の班の発表を聞いていると、内容がかぶっているところもあるので、もし興味があれば皆さんもぜひ一緒に街歩きを。
- 白地図に、その人なり視点や気づいたポイントを書き込んでいく。
- 歩きたくなる街づくりの仕組みを、机上で作るよりも実際に歩いてみる。地元の人が書き込んだ地図それ自体が面白く価値がある。それも残していきたい。

## A グループ議事録

テーマ：「人や商店のつながりを作る活動」

ファシリリレーター：全国市街地再開発協会

### ■模造紙



### ■グループトーク

#### 【前半】

ファシリ：前回途中退室された参加者 A さんは、何かご意見や付け足すことはあるか。

参加者 A：学生との活動は私も何かできないかと考えていた。また同窓会という切り口も面

白そうである。

参加者 B：前回の共創会議の後、同級生で再度集まったが、ハロウィンの際に集まろうという話になった。また、前回議題に挙がった高校生がダンスを練習する場所については、レザンホールの鏡で練習しているのをたまに見かけるが、もっと場所を作って上げられたらと思う。

参加者 C：店主の集まりについて深堀したい。広丘では店主が一致団結してお祭りを

盛り上げている。以前は大門も同じように盛り上がり、非常に楽しそうであったのを記憶している。しかし、商店主だけの集まりではなく商店主以外の人も巻き込んだ活動をしていきたい。同窓会もその一つであると考えている。あとはその集まりをどうつなげていくかだと思う。

ファシリ：同窓会は、学校や塾の繋がりだけであるのが一般的であるが、それらでは教えてくれない、まちで学ぶこともあると思っている。それが原体験であり、再びこの街に戻ってくる要因であると考えている。この街には、まちとして原体験を生み出す要素が不足していると考えている。

参加者 D：大門商店街の求心力を取り戻すためには、このまちに魅力を感じてくれている人をどう繋げるかだと考えている。玄蕃祭りも昔はもっと小規模で、大門で丸となって行なっていたが、今は塩尻全体の祭りとなっている。規模が大きくなって多くの人が来てくれるようになるのは良いことではあると思うが、地元の暖かい祭りの雰囲気ではなくなってしまった。商店街としてのつながりを失ってしまった要因の一つではないかと思う。

ファシリ：「地元感」というのは1つのテーマとして良いと感じた。

参加者 D：昔はえんぱーくやウイングロードがなかったため、大小はあれど、商店主が丸となって盛り上げようとしていたが、このような大きな施設ができるとそれに頼ってしまう。衰退してしまっている原因の一つに挙げられるのではないか。

参加者 A：ハロウィンや玄蕃祭りなどのイベント時に何かやろうとするのも大事ではあるが、もっと日常的に、規模よりも頻度を増やして行なっていきたいと思う。

ファシリ：新たに何かをやろうとするとパワーがかかる。日頃皆さんが行なっている活動や仕事に支障のないレベルで何か活動していただけたらと思っている。高校生も巻き込みながら地元感を出していければよいと思う。

参加者 A：塩尻は、イベントはたくさんあると思う。それでも思い出にならないのは何が足りないのか、どんな体験があったらよいかを聞いていかなければいけないのではないか。

参加者 C：参加者 A さんが実施してくれた職場体験は、かなり思い出に残っている様子で、体験に来てくれた学生がいまだに店に顔を出してくれたりする。非常に良いイベントだったと思う。

ファシリ：今日もたくさんの学生がえんぱーくに来ている。この学生たちが商店街に出てきて、何かを買ったり商店主と話したりしている風景を日常的に創り出していかなければいけない。

参加者 C：となると商材を変えなければいけない。

ファシリ：商材を丸ごと変えるのではなく、お店の 1/10 でも 1/20 でも、皆さんのご負担のない範囲で良いと考えている。

ファシリ：参加者 A さんがやっている職業体験は今も継続しているのか。

参加者 A：中学 2 年生を対象に年 1 回行なっている。

ファシリ：月に 1 回は大変だと思うが、もっと頻度を増やすことはできないだろうか。

参加者 C：生徒を出す学校側の負担が大きくなるのではないか。

ファシリ：大門の店主さんに協力いただき、大門商店街専用通貨を作り、1 か月間などの期間を設けて小学生の職業体験ができないか。キッザニアの塩尻バージョンのようなイメージである。1 日の限定イベントではなく、ある程度の期間をもって実施したい。

参加者 A：私が行っているのは、商店だけでなく、例えば市長の体験なども体験してもらっている。独自の賃金も発行している。

参加者 B：職業体験と聞くと真面目な活動という印象があるが、もう少しフランクな形でできたらよいと思う。学生に直接聞いた方が良いのではないか。

参加者 C：活動したい、職業体験をやりたいと思ってきている子たちを共創会議に呼んでほしい。

参加者 B：違う学校の生徒で交流しても面白いと思う。

事務局：えんぱーくが学校を超えた交流の場になっている。

ファシリ：今、皆さんから出た案が持つ課題はどのようなものがあるか。

参加者 C：学生に対するアプローチの面で、今の課題は客単価が低いことである。しかし、それをやらなければ将来につながらないのは理解していて、どこまでを投資と捉えるかが重要である。

参加者 A：そういうものも含めて学生と考えられたらと思う。参加者 C さんのお店も、売れるものの幅は以外と広いと思う。学生が売ってほしいと思うものを、仕入れから一緒に検討しても面白いのではないか。

ファシリ：学生の目線は大人とは違い、面白い視点を持っている。

参加者 D：住宅や洋服など、意外と昔のものがウケることがある。いわゆる「昭和レトロ」。品物をどうするかということも含めて、高校生に一度チャレンジショップを体験いただきたい。こちら側のマーケティングにもなると考えている。

ファシリ：現時点のまとめとして、

- ・既存の商店と学生が連携して、学生と対話し、学生と一緒にエンターテインメントを考える
- ・同窓会について深掘りするという方向性でどうか。

一同：問題ない。

## 【後半】

参加者 B：まちの現状や課題を同級生と共有しなければならない。集まろうという話には

なるが、その先のステップに進むにはもう少し時間がかかる。熱量はあるので、それをどこに向けるかだと思う。

ファシリ：まちづくりの話をしようということで集めるのはハードルが高いかもしれない。今の段階では、集まった中でまちづくりの話をするレベルで良いと思う。Aグループのテーマである「つながりづくり」の中で、小さなつながりが少しずつできればよくて、つながりの一つに同窓会があればよいと思う。ゆくゆくは、その同級生の皆さんと、えんぱーくに来ている学生で対話しても面白いかもしれない。もう一つのテーマは、この会議にも参加いただいている先生にもご協力いただき、対話しながら何か進めていくのは十分に実現可能であると思う。

参加者D：調べると、まちと高校生をからめたまちづくりに関する論文や記事がたくさん出てくる。

ファシリ：今までそのような活動をやったことあるか。

参加者C：私が知る限りはない。

ファシリ：おそらく、今の若者たちは幼少期に親と一緒に商店街に買い物に行くという体験をしていない。買い物といえば、スーパーマーケットや郊外の大型商業施設を連想させると思う。とはいえ、今私たちが議論しても推論でしかないため、学生たちの意見は聞くべきである。あるいは、えんぱーくに意見箱のようなものを設置してもらって、意見を集める方法もある。

参加者A：高校生は、まちの課題を見つけて解決策を考えるという授業が必須である。各学年でステップアップしていき、3年時には総合探求でアクションステージに入る。

参加者C：リクエストボックスと並行して対面でも意見を吸い上げるべきである。

ファシリ：行政に協力いただくことは協力いただき、商店街で解決できることは解決する。このようなものはえんぱーくおよび商工課で協力いただくことは可能か。

市：可能である。

参加者A：いつもの会議で、こういうの良いという話にはなるが、ではだれが進めるのかというのが今後の課題ではないか。

ファシリ：全体で集まるのは年内に1回、年度末に1回を予定しているが、各会の間に皆さんで集まってぜひ議論して進めてほしい。質問等あれば、連絡いただければ回答する。

参加者B：今は職業体験が中学2年生のみだが、理想は小学生くらいから実施して成長を追っていきたい。

参加者A：先生も異動があったりして母校に遊びに行っても知っている人がいなくなってしまう。まちがその役割を担いたい。

参加者C：やはり、店の商品構成を考え直すべきなのではないか。

ファシリ：お店の一角に何か協力いただくだけで良い。皆さんが守られてきたお店のブランドイメージや手間を増やすのではなく、ティーン向けの商品をほんの一部おいていただければ良い。高校生と一緒に考えていけたら理想であるが、そのようなことを考える過程も含めて大事なことである。

参加者 C：うちの店は学生服の販売も行っており、たくさんの学生に来店いただく。採寸の待ち時間にお店を見てもらえればと思い、店の一角にキーホルダーやハンカチを置いてみたら買ってくれたり、楽しんでくれたりしている。

ファシリ：例えば、今の女子生徒は早いうちから化粧品に興味を持つ。ティーン向けの化粧品を置いてみても良さそうではないか。

事務局：ティーン向けの化粧品があるのか。

参加者 C：ティーン向けの化粧品はないと思うが、化粧品であれば世代関係なく楽しめると思う。その中で学生も手に取りやすい化粧品を販売するのも良いと思う。また、メイク講座などは実施できるかもしれない。

ファシリ：商品に限らず、体験でもよい。どんなお店にも何かしらの要素はある。ぜひ考えてみてほしい。

参加者 D：一方で、えんぱーくに来ている人は学生だけでなく高齢者も多い。そういった方とのつながりも作ってあげるべきである。

ファシリ：大切なことである。仮にリクエストボックスを設置するのであれば、世代別にいろいろな方の意見を集約し、分析するべきである。

事務局：ウイングロードで年に一回アンケート調査を行なっている。

ファシリ：参加者 C さんと参加者 A さんが連携してそのような場を作ることは可能か。

参加者 C：人数は別として可能である。

参加者 A：この会議に参加している有志と学生でやってみてよいと思う。

参加者 C：リクエストボックスは非常に良いと思っていて、継続的にデータを集め、ウイングロードのアンケートも含めてたくさんのデータを集積して分析出来たら良い。

ファシリ：ウイングロードにもボックスを設置できればより良いと思う。形式については、時代に逆行するかもしれないが、ぜひ紙で実施してほしい。批判的な意見や無理難題が来るかもしれないが、良い取り組みになると思う。

## B グループ議事録

テーマ：「多世代交流・居場所づくり」

ファシリテーター：株式会社 UG 都市建築

### ■グループトーク

（前回の振り返り）

ファシリ：前は、「誰を対象に」、「何を」、「どこで」という軸で【多世代交流・居場所づくり】についてラベルワークを行った。今回は、実際のアクションにつなげていくために、「皆さん自身に出来ることは何か」ということを念頭に置いて、さらに深掘したい。前回出てきた考えやアイデアは、誰かの土地・建物を使うものが多く、気持ちがあっても、なかなか実現に向けて進めづらいアイデアが多くみられた。今回は、パブリックな場所を使うアイデア、皆さん自身や仲間の力で実現できるアイデアを考えたい。

参加者 D：前は、あくまでもプレストとして風呂敷を広げたが、今回は、資金や人員含め、実際にどのように進めていくかを意識したアイデア出しを行うという理解で良いか。

ファシリ：その理解で問題ない。今回は、前半で実現を目指す取組を絞り込み、後半で、資金や場所、実現の方法などの課題を整理する流れで進めたい。

事務局：今回参加していないが、前回【多世代交流・居場所づくり】で参加した中村氏は、実際に建物を建てる計画を進めていると話していたので、詳細を聞きに行った。高ボッチ高原 FM スタジオの東側にある 60 坪ほどの敷地に、2 階建ての建物を建てる計画とのこと。建物の機能としては、文化系の機能や高ボッチ高原参加者 FM スタジオの機能を入れるほか、レンタル可能なコミュニティホールを作るとのことで、地域の方々にもぜひ使ってほしいと話していた。

ファシリ：実際に進んでいる計画があることは良いことだ。ただ、それに頼りきりになるのではなく、自分たちでできることも考えていきたい。

（前半：実現性を意識した取組について）

ファシリ：前回のアイデアをヒントにしながら、実行できそうなアイデア、やってみたいアイデアを教えて欲しい。

参加者 C：“実行できそうなアイデア” とは、プレイヤーとしてという理解で良いか。

ファシリ：プレイヤーとして出来るアイデアを考えて欲しい。

参加者 C：他の参加者から出てきたアイデアは、いずれも自分がプレイヤーとして実行することは難しい。

参加者 A：前回、うだうだ集まれる場所というアイデアが出ているが、えんぱーくが既にそのような場所だと思う。えんぱーくの外部空間については、自由度が低く感じており、デッキや軒下空間で飲食ができる等、えんぱーくの自由度を高める



仕組みを作ることは出来るのではないか。

参加者 B：・ウイングロード1階のスペースを借りて、塩尻市の音楽関係者を呼び、コンサートを開いている。音楽を聴ける場であり、演者にとっては発表の場にもなっている。また、パネルシアターも行っており、子どもから大人まで楽しめるようになっている。このコンサートは、時間が30分に限定されているが、本当はコンサートの後に、お茶を飲んでゆっくり過ごせるようなイベントにしたい。

- ・えんばーくの「風の広場」は、イベントに活用されることもあるが、普段はバス待ちの人や若者が留まる空間になっている。バスに乗って塩尻を訪れる高齢者もあり、高齢者の孤立を防ぐという観点も踏まえると、バスの待ち時間に何かできると良いのではないかと考えている。
- ・えんばーくにある駄菓子屋には、子どもだけでなく、高齢者も利用しているという話を聞いたので、駄菓子屋ができて良かったと思う。
- ・塩尻には、レザンホールの地下にギャラリーがあるものの、美術館はない。商店街全体がアートになっていれば、観て、歩いて楽しいのではないか。例えば、1つの店舗に1つでも子供たちの作品が展示されていれば、見に来る人がいると思う。
- ・座る場所が欲しい。ベンチはもちろん、例えば植栽の縁が座りやすい高さになっているだけでも、腰掛ける人がいると思う。まちなかにちょっと座れる場所があるだけで、高齢者も病人も、様々な人がまちに出てくるようになると思う。できれば日影も欲しい。

ファシリ：大門の中でベンチや腰掛を設置できそうな場所はあるか。

参加者 B：ウイングロードの前にあるラベンダーの部分を、座りやすい高さ・形状にできないか。

事務局：その場所は、ハロウィンなどのイベントの際、座れると良いなと思うことがある。

参加者 B：コンサートを開催する際は、ウイングロードの中で椅子を用意して行っているが、ウイングロードの外にも座れる場所があれば、屋外コンサートも開催できそう。

参加者 D：大門三番町で en.to というシェアハウスを運営している。シェアハウスの前には、芝生が広がっており、また、古い建物（ハリカ）の跡地（70坪ほど）がある。このシェアハウス前の空間をもっとうまく活用したい。

参加者 B：芝生は、物をこぼしたとしても汚れが気にならないから使いやすい。

参加者 D：子どもたちが芝生を駆け回っている。餅つき大会を開いたり、祭りの際に休憩場所として使われたり、芝生の良さを実感している。皆さんにももっと活用してほしい。滞在型交流拠点として、地域内外の人、多世代、いろんな人が交流

し、そこからさらに地域のにぎわい創出につながっていけばと思っている。しかし、ただ芝生があるだけでは人が集まるわけでない。何か仕掛けが必要である。近所の方々にも、いつでも利用して良いと伝えているが、なかなか利用してもらえない。

ちょっとしたカフェを出してはどうかという意見も出ているが、資金と人員の確保、運営方法が課題で実行に移せていない。

参加者 B：毎日でなくても、決まった曜日だけいるとか、常設じゃなくてもキッチンカーを使うとか、工夫できるのではないかな。

参加者 D：マルシェを開いたこともあるが、なかなか人が集まらない。収益が見込めなければ、キッチンカーなどと呼ぶことも難しい。こうした状況を踏まえると、話題に上がったように、いすを並べたり、東屋を作ったりして、自然と人が集まれる仕掛けを作ることは良いアイデアだと思う。

ファシリ：自然と人が集まってくるようなことを何か仕掛けたい。例えば、今話題に上がったベンチ、腰掛であれば、この班には、建築士もいるが、オリジナルでデザインしてもらうことはできないか。

参加者 A：費用面等の課題はあるが、移動可能なもので、県産材を使ったもの、地域性を活かしたものをデザインすることは可能だと思う。建築士会では、「まちなかりビング」と呼ばれる、ベンチが付属した、半分建築で、半分仮設の様な、ヒノキ材を使用した小屋の貸し出しを無料で行っている。それを活用することも考えられる。

参加者 D：周りからすると、芝生だけあっても利用して良いか分からないが、椅子があると、使って良いと認識してもらえるとと思う。屋根もあると良い。

ファシリ：先日、フランスとドイツに行ってきたが、座る場所がまちの至る場所にあり、世代を問わずいろんな人が座っている。いろんな人がまちのあちこちで“座る”という風景を塩尻にも作ってみてはどうかと考えている。

ファシリ：これまでの話から、場所は、en.to の前の空間、ウイングロード前のラベンダーの部分が候補になりそうだ。また、個人的には、桑野湯の前でコーヒー牛乳が飲めるようになっていて良いと感じた。屋外に人が留まれる空間があると良いと思う。

参加者 B：秋葉神社の空間がもったいないと感じている。

事務局：隣にできたゲストハウスの方に相談してみると良いかもしれない。

参加者 A：大門一番町集会所ももっと利用できると思う。

ファシリ：座るものは、「まちなかりビング」を活用する、ベンチとパラソルを配置する、植栽を腰掛けられるように工夫するといったパターンが考えられそうだ。

参加者 D：人が座るようになり、集まるようになれば、キッチンカーを呼ぶこともできると思う。人が集まると分かっていなければ、キッチンカーを呼ぶことは難し

い。

ファシリ：人が集まる仕掛けなしにイベントを開催しても、その時しか人は集まらない。まずは、まちにすることが楽しくなる居場所づくりを仕掛ける必要がある。資金面については、塩尻市、しおじり街元気カンパニー等に相談すると、何か解決策があるかもしれない。方法論がわからないからと言って諦めると、何も進まない。

参加者 B：宇部市では、至る所にアートオブジェが展示されている。座る場所にオブジェを展示すると目印になるのではないかな。

参加者 D：渋谷でシブヤフォントという障がいのある人が描いた文字や絵を使ったプロジェクトがある。座れる場所に、そうしたアートを展示しても良さそうだ。

参加者 B：まちのなかに座れる場所が出来たら、そこでコンサートを開いても楽しそう。

ファシリ：フランスのコルマルには、綺麗に塗装された大きな鉢植えの植栽が、まちの至る所にあり、場所によってその色が異なっている。アートの話が出たが、アートそのものでなくても、華やかでアイコン的な鉢植えを置くだけでも、まちが鮮やかになり、訪れたいまちになると思う。

参加者 D：確かに、人は綺麗なものに集まるし、綺麗なベンチ、腰掛なら座りたくなると思う。インスタ映えするベンチにすると良さそう。

ファシリ：これまでの内容を整理すると、対象となる場所の候補はいくつかありそうということが分かった。その場所に、留まりたくなるようなベンチや腰掛、まちなかりピング等を設置して、まずは人を集めてみる。人が集まるということが分かれば、マルシェやキッチンカーを仕掛けることもできる。まずは、うだうだしていい、座っていいと思ってもらえる場所を、塩尻らしく設えてみてはどうだろうか。

（後半：課題整理）

ファシリ：ウイングロードや秋葉神社を活用する場合、許可を取る相手先は分かるか。

事務局：ウイングロードは、地権者は数名いるが、まずは施設管理している市に相談することになる。秋葉神社は、複数の権利者が区分所有しているが、まずは神社を管理する総代に相談することになる。ウイングロードも秋葉神社も相手先は分かっている。

ファシリ：en.to 周りの許可は、参加者 D さんに確認すれば問題ないだろうか。

参加者 D：en.to 前の空き地の土地利用は、現在検討中とのことで、方針によってはベンチ等の設置が難しくなる可能性もある。

ファシリ：参加者 en.to の芝生に絞れば、例えば黄色いベンチを設置したいと相談することは可能だろうか。

参加者 D：en.to は外見を大事にしており、黄色いベンチを置きたいとなれば、運営者と

の相談が必要である。奇抜な色等、en.to のイメージにそぐわないものを設置することは難しい。ベンチを置くこと自体は、問題ない。

ファシリ：残る課題は、資金だろうか。

参加者 A：資金だけでなく、ずく（長野県の方言：面倒臭いことに取り組むための気力、やる気）も課題である。

参加者 D：ベンチの設置と併せて人を呼び込むイベントを開催するといった企画・運営が必要であれば、ずくが必要だが、ベンチを設置するだけあれば、そこまで課題ではないと思う。まずベンチを設置するところから始めてみるという認識だが問題ないか。

ファシリ：まずは、ベンチをいくつか作成し、それを設置できる場所に設置してみる。いきなりそれ以上のことをするイメージではない。ただ、まちに訪れたくなる、留まりたくなるベンチや腰掛を設えるために、どの程度のずくが必要になるかは分からない。また、ずくだけでなく、やはり資金面も課題である。

参加者 A：手間がかかるということは、時間を消費することでもある。そうするとやはり、ずくが必要である。

ファシリ：ボランティアとして取り組むとなれば、モチベーションを保てない。無償でとりくめということではなく、企画・検討やデザイン等に必要な報酬は、きちんと支払われる仕組みが必要だと考えている。

ファシリ：企画検討費、設計・デザイン費、工事費、材料費等、ベンチや腰掛を設置するために必要な資金は、どこから調達することが考えられるだろうか。

事務局：まちに訪れたくなる、留まりたくなる場所づくりをしたい、それが多くの人に利用される見込みがある、ということであれば、全額ではないかもしれないが、まちづくりの一環として、しおじり街元気カンパニーが支援することも可能である。

参加者 D：公共空間ではなく、例えば en.to の敷地を使う場合でも対象になるのか。

事務局：対象になる。既に支援が決まっている取組もあるため、全ての予算を充てることは出来ないが、相応の提案が書かれた企画書があれば、100～200 万円程支援する可能性もある。市に相談することも考えられるが、市の支援を受ける場合は、ウイングロード前やえんぱーくなど、公共空間の取り組みに限られるように思う。

ファシリ：何らかの市の補助金を活用することは出来ないだろうか。

事務局：現在市に、ベンチ設置に活用できる補助金はないと思われる。市の補助金を活用するのであれば、補助要件を見直してもらう必要があると思う。

参加者 D：まちづくりチャレンジ事業補助制度を活用できないか。当該制度は、まちにとって何か良い活動をする市民団体に対する補助制度である。ただし、当該制度の活用には、誰かが音頭を取る必要がある。

ファシリ：民間企業から支援を受けることも考えられる。例えば、コメリは、まちづくりに対する補助を行っている。

ファシリ：少しハードルが高くなるが、クラウドファンディングをやってみてはどうか。

参加者 D：クラウドファンディングは、誰が仕切るかが課題となるだろう。しおじり街元気カンパニーにクラウドファンディングをやってもらうことは可能だろうか。

事務局：現在のマンパワーでは対応できない

参加者 A：県産材を使用するのであれば、長野県に、子どもの居場所づくりに対する補助制度がある。建築に対する補助と什器に対する補助があり、それぞれ補助対象事業費の上限が定められている。多くの方にとって役に立つことが分かるのであれば、長野県は親身に相談に乗ってくれる。

参加者 D：雨にさらされるものも補助対象になるだろうか。

参加者 A：点在させるものが対象になるかも分からない。

ファシリ：疑問点はあるにしても、初めから諦める必要はない。

参加者 D：CSR や地方創生等の関連で、企業に支援してもらうことは出来ないだろうか。JT や中部電力等は CSR に取り組んでいる。

ファシリ：ほかにも支援してもらえそうな塩尻に関連のある企業があると良い。

参加者 A：長野県は、地域発元気づくり支援金という補助も行っている。

参加者 D：当該支援で花壇づくり等も行われており、ベンチ・腰掛づくりにも活用できそうだ。

事務局：締め切りは、1 月末頃である。

参加者 A：クラウドファンディングよりは現実的だと思う。

ファシリ：しおじり街元気カンパニーがいて、大門まちづくり共創会議で議論をして、子どもから高齢者まで多くの人の居場所になり、将来的にはカフェをつくること等にもつながってくると、背景から先の展望までストーリーが組み立てられそうだ。必要書類は、結構なボリュームなのか。

参加者 D：それなりに労力が必要であり、それこそすぐが必要。

参加者 A：必要書類の作成は、周りにも協力してもらえば、何とかなるだろう。

参加者 D：毎年テーマが少し変わるが、重点支援対象事業もあり、基準を満たせば、補助率が上がる

ファシリ：気張った設えにする必要はないと思う。

参加者 D：なんか座りたくなるような設えにしたい。

参加者 D：座る場所に屋根が欲しい。en.to の芝生は、日影がなく、あまり人が留まらない。

ファシリ：あまり囲いたくないが、何かアイデアはないだろうか。

参加者 B：パラソルを立てると良さそうだが、風で飛ばされる心配がある。

参加者 A：デザインで工夫できそうである。

ファシリ：このプロジェクトに名前を付けたい。

## C グループ議事録

テーマ：「歩きたくなる仕組みづくり」

ファシリテーター：全国市街地再開発協会

### ■グループトーク

ファシリ：最初の 30・40 分でこの間で出た意見と新規二人の意見を踏まえて仕組み、仕掛けに落とし込めたら。後半ではそのための課題感などを出していくイメージ。仕組みづくりというテーマから、アクションとしてできる中テーマを出していきたい。

参加者 A：全部のテーマに興味ある。歩きたくなる街、街に滞在する、ぶらぶらするという状態になるといい。この会議で 3 か所行きたいところがあると街を歩く。

ファシリ：一つではなく最低 3 つ連動すると動きが出てくる。

参加者 A：それが大事だと思う。大門マルシェをやっている。ホコ天も始まった。道に人工芝を出したりと滞在する感じになっていけば。街の道に人がいるという景色ができればいいなと。お店のラリー系とか何回かやってよかった。参加者 E も飲食をやっているのでバルなど話題には出る。やりたいと思って声をかけるのだから実現していない。スタンプラリーをやると店主さんに喜んでもらったのでもう少し日常化できたら。

参加者 D：歩きたくなる街といったときに、塩尻の欠点はいい場所といい場所の間に距離があること。まとまっていれば来た人も歩きやすい。点と点の間をどういう仕組みを作ってつなげられるか。歩きたくなる仕組みづくりは、A グループの“つながり” B グループの“居場所”の話を合わせればよいのでは。それをどうつなげて歩きたくなるのかを考えたい。まちなかに木陰に椅子を置いて座れる、飲み物を買って休める場所がちょっとあるだけでも雰囲気が違う。人がいる、歩いているだけではなく、留まっているとよい。周りの人から見える場所に人がとどまる仕組みを作れて、その状態が長く続けば人がいるように見えてくる。えんてらすは日常性、普段から人が来るために何をしようか、ということを考えている。その視点を持っているとよい。イベントはイベントで個々の魅力を伝えることができるのでいいが、イベントがないときに人がいるためにどうしたらいいかという視点も大事。

ファシリ：前回の話も同じような話が出てきていた。例えば参加者 Bさんは、建物の中にいる人をどう外に出すか。通り過ぎてしまう人をどう滞在させるか、がポイントなのではという意見が出ていた。そのための仕組みはマップ作りの話が多く出ていた。どこに何があるかを認知させるためにマップ。仕組みのもう一つは街歩きもあった。（歴史とか）ここからは前回時間切れで止まってしまった内容を深掘していきたい。

前回の話を踏まえて、この班の意見を分類すると、

- ①場を探す。人がいるところの中間領域がない。そこに人がいない。人を中から連れ出して、グラデーションを作っていく。場や場の活用について考えていきたい。(スナバの敷地とか空き地とかを共通で把握して、そこで何が仕掛けられるかを考えていくなど。)
- ②マップ。商店の紹介だけではなくて休憩の場をまとめたマップを作っても面白いのでは。

参加者 F：大門マルシェをやっているスペースもあるよね。ウィングロードの敷地など。

参加者 A：マルシェをやるときに、商店街の空き地はあらかじめ探した。

ファシリ：マルシェをやるために目星をつけたのか。

参加者 A：北側（秋葉神社など）はまだやっていないがミミー商店、en.to くらいまでの道路肩で使える場所はほとんど網羅。以前はホコ天ではなかったので、ミミー商店とか介護専門学校の駐車場とか、ダスキンの駐車場とか高ボッチ FM の駐車場など地元の駐車場、en.to の前でやっていた。立石屋局の駐車場は交渉したことはないが使いそう。基本日中は使っているので、土日のイベントの時に使わせてもらえないかと交渉。

参加者 C：WR の前のタクシー乗り場が今は全然活用されていない。旧タコハイの前からみんな乗っている。あそこが空いていてもったいない。お金かかるだろうけれど使えないか？

参加者 F：塩尻のタクシー協会（アルピコ・美勢タクシー）が権利を持っている。

参加者 D：旧タコハイ前の方が乗りやすい。タクシー乗り場から乗らせるためには、待っている間に座っていただける場所を作ってあげるなどが必要。今の状態だと待ちやすいのがタコハイ前になる。

参加者 C：タクシー乗り場の地面には段差がある。その段差がお年寄りには物理的に厳しく、タコハイ前の方で待ってしまう。

参加者 F：タクシー会社もそれを理解している。のるーとの停車場もタコハイの前に設置したこともあった。

参加者 C：タクシー乗り場の周辺にあるのるーとの停車場を一緒の場所にしてしまい、タクシー乗り場を移動させれば、現タクシー乗り場を他のことに活用できるようになる。WR の周りの地面が平らな部分をもっと活用したらどうか？（椅子などを）道路に出すとなると、県などに申請が必要だったりするが、タクシー乗り場なら申請がもう少し楽になるのでは。

参加者 F：大門駐車場西側の平面駐車場を 2 台分くらい確保してタクシー乗り場にする？

参加者 D：そういう奥まったところではなくて、大通りの方に置かないといけないのでは。

参加者 C：私が言いたいのは、そのタクシー乗り場のコーナーをどうせ使わないなら、そ



こをつぶして人が座れるような空間に整備するなどをすればいいのでは、ということ。今あのタクシー乗り場は整備もできていなくて地面がガタガタ。どうせ整備をしなければならない。

参加者 F：タクシー協会の方は、今は使っていないけれど既得権だとかでいろいろあると思う。

参加者 D：どうなるかはわからないけれど、とりあえず話をしてみる価値はあるんじゃないか。

ファシリ：今のような話でよい。「あそこに空き地がある：という共通認識があると、課題やどうアプローチしていくべきかが見えてくるようになる。場所の話ばかりになってしまったが、場で何をするか、どんな仕組みを作るかが大事。現実的に考えてほしい。将来こうなれば、ではなくて、今自分たちが何をできるかという現実的な落としどころを考えていかないといけない。

参加者 A：イベントとかなら考えられるけれど、“日常”は難しい。

参加者 D：イベントをやることで、「こういうことができたんだ！」とか「座ってみると意外といいね！」とかを感じてもらえれば、それで周知につながる。

参加者 A：大門マルシェは出店店舗に行くことがメインのイベントなので、目的の出店店舗へ買い物しに行くだけで終わる。いちたとかミミー商店とか、商店街の売り上げが上がることには何も貢献できてはいない。来訪者の人数が増えているからいい所もあるかもだけど、マルシェですべてを解決しようとするのは無理。街の商店の皆さんと一緒に他の何かをできないか。既存の大門マルシェと合わせようとするのが難しい。

参加者 C：大門マルシェもあり、バルもありという風に、何個も企画を打ち出していけばいいと思う。前回話したが、塩尻の大門商店街には何も無いと思われている。一軒一軒のお店が頑張っているけど、買い物に行く場所の選択肢としてステージにすら上がってこない。大門商店街自体を「面白いことやっているらしい」「ちょっと言ってみようか」と浮き上がらせるために、大門マルシェやバルなど、注目を集めるための何かをいくつもやっていく必要がある。お店へお客さんに来てもらった時に駐車場を聞かれる。駐車場の場所とか駅からの距離とか、お店の人が何を知ってもらいたいのか、取り上げてほしいかをちゃんと吸い上げたマップを作りたい。とにかく、商店や大門の人たちが思っている以上に「塩尻には何も無い」というイメージを持たれていることに危機感を覚えてほしい。塩尻のイメージがそもそも持たれてもいけない。来てくれた人に対して、歩きやすく滞在しやすくする。そして座れる場所を作ってお茶ができるようにする。

ファシリ：来訪してもらったとしても、現状だとその人たちに不便になってしまっている。マップや滞在する場所を作ったりして、複合的にかみ合っていないと歩き

たくなる街にはならない。

ファシリ：マルシェをやるときは、各ブースの食べ物はどうやって食べる？各店舗が椅子を出すのか。

参加者 A：運営側で椅子を何個か出したり、ウイングロードの椅子を借りたり、えんぱーくの中の椅子を出したりしている。

ファシリ：街の中に椅子を置くことに意味が生まれていくといい。マルシェをやる場所に、元から椅子があったらそこで食事がとれる。ただ適当に椅子を設置するだけではなくて、椅子があるからそこでマルシェをやろう、と思えるようにしたい。椅子とマルシェで相乗効果を生み出せるようになるといい。

参加者 D：最初のえんぱーくピクニックに行ってみたが、歩行者天国の路上に椅子を出していても、炎天下なので誰も座っていなかった。日陰に並べると座ると思う。今ある動かせるものを、試験的に動かしておいてみて、それが終わったらまた元の場所に戻せばいい。日陰を作るなら、テントよりも WR の建物の日陰の方が風が通って涼しく、そこに人が集まっていた。イベントの時に人の流れを観察した方がいい

参加者 B：座ることや食べる事には、その手前にそれを促す仕掛けがないと、置いただけでは座らない。椅子をどこに置くかで人の行動が変わる。例えばタコハイは外からテイクアウトの食べ物を買えた。その近くに座れる場所があれば、買った人自然に座る。えんぱーくで借りた本を外で読んでもいいはずだが、今は外に行く動線や、どこで読むかのつながりがいいからそういう人が現れない。ミミ一商店の前、夜に通ると電気がついていて雰囲気がいい。そういうところに座れるところがあったら夜でも人が集まるとか。いちたの前に何があったら、お店の中のものと外での行為がつながるのか考えたい。

参加者 A：京都で使うような、赤い椅子を置いて、抹茶サービスとかあったら着物着て座りたいよね。

参加者 D：道路占用が以前よりも緩くなってきているので、路上に椅子を置くのにも厳しく言わなくなっている。可能ならそこからアプローチしてみても

参加者 A：いちたの前のスペースを借りてお茶会とかいいな。着物好きな人が集まっているのはさんのお団子を出すとか。社協の人が華道だか茶道だか始めたといっていたので、そういう人を呼んでもよい。

参加者 C：外の見えるところにそういう仕掛けを出すことは大事。

参加者 E：都市大塩尻の茶道部とつながりがある。（ダスキンとチンタイバンクで協力して畳をあげた。その代わりに大門商店街に協力してねという約束）部活の延長で月に何回かそこでお茶立てをやってくれないかな。

参加者 B：もう来週やろう。自分にもスナバに来ている茶道部の知り合いいる。

参加者 C：お店の前となると屋根がないから、でかい傘があるとよい。

参加者 B：そこに座っているだけで絵になる。

参加者 D：昔八十二銀行のまえで正月付近に松飾を売っていた。1 週間か 10 日くらい。去年はいなかった。もうやらなくなったのか？（参加者 C：最近もやっている。）そういう季節ごとの催しを、それぞれの店舗で何かできないか。

参加者 E：商店街で示し合わせて一斉にやらないといけない。

参加者 A：真夏の午後 4 時になったら一斉に水打ちやるとか。一人でやると寂しいけどみんなですると楽しい。

参加者 C：依頼して市民タイムスとかに取材してもらえばいい。「塩尻いろいろ考えているじゃん」ということをいろんな人に知ってもらいたい。

ファシリ：いろんなことをいろいろやっているのはおもしろい。シャッター商店街の前も撒いておくと面白いかも。

参加者 A：来年の夏やりましょう。お揃いの桶だけ組合で買う。

参加者 B：銭湯（桑の湯）の桶を使ったり。ひしゃくみたいな。

参加者 G：小さいことからやっていけるとよい。

ファシリ：皆さん現実的な落としどころを考えてくれている。意識してほしいのの一つやっただけでは意味がないってこと。複数が連携してやっていくっていうことが大事。休憩スペースも一つではなくて、複数個所に設置するにはどうしようっていう深堀が大事。ただの椅子でも、同じようなデザインのものが複数個所にいくつも置いてあると、塩尻としてみんなで行っているっていう雰囲気が出る。塩尻ではどこでも腰かけていいのかな、と思わせられる。色を統一するとか、デザインを統一するとか。

参加者 E：かつてはワイン樽が置いてあった。時間が経って桶が崩れて撤去してしまった。

ファシリ：「座る＝人がいるように見せる」という手法。そこにお抹茶みたいなアクションが絡むとより面白い。人をどうそこにいさせるか、いさせるようにそこを利用する仕掛けづくりになっていく。自然とそこに座るための、座る前の仕掛けが必要。

参加者 E：えんぱーくの風の広場は、最初はその意識で作られた。

参加者 D：最初のピクニックの時に、意見として「えんぱーくの中にある椅子をホコ天上に並べてほしい」といった。そういうものが外にあるとお祭りみたいな雰囲気を作れるかなと。とりあえず常時じゃなくてもイベントの時に椅子を置いてみて、来た人達はこんなところに座るんだっていうのを確認する作業が大事。イベントの時よく人が座っていてよいな、となったら常設のために動く。とりあえずちょっと試しにやってみるといい。

参加者 G：えんぱーくは大門商店街商店街に含まれるのか。

参加者 D：商店街。商店ではないけど、商店街という街の一部。

参加者 G：そのはずなんだけれど、現状はあまり商店とのつながりが無い。

参加者 C：これからそうになっていくのだと思う。やっとシリゼミもマルシェもえんぱーくでやれるようになってきた。一緒にやりましょう、という感じに最近なっている。

参加者 E：駄菓子屋を作ったことがすごくきっかけになっている。風の広場の若い人達の利用も増えてきている。

参加者 D：駄菓子屋の店の中にとどまるのではなくて、外にも同じ椅子を置いて座ってもらえるように。

参加者 A：まだそんなに人がきてもらえないんですね。頑張ります。

参加者 G：えんぱーくは大門商店街にあるので、せっかくならもう少し近くつながっている感じにしたい。例えばこの会議にもえんぱーくの人はいない。

参加者 C：この頃やっと協力的ではあるんだけど、やっぱりもう一つなにか。

参加者 A：この会議は別に業務で来るものでもないもので、やる気のある人が来ればいい。

市：えんぱーくの人はずわと呼んでいない。えんぱーくの人があここにきてしまうと、皆さんがえんぱーくに「これをやってほしい」という意見を言う場になる可能性がある。皆さんがえんぱーくでやりたいことなどを意見として思いついてきたら、その相談をえんぱーくにできるように話はしてある。

参加者 A：えんぱーくの人たちが街に対してどう考えているのか知りたい。えんぱーくの職員には、大門商店街の活性化を考えることが任務に入っているのではないかとと思っている。私たちからえんぱーくに提案をするということもやるけれど、えんぱーくはこちら側に何をしてくれるの？っていう。

参加者 D：参加者とえんぱーくとのコミュニケーションが取れていないじゃない。お互いでコミュニケーションをできるように。

参加者 C：最初の頃風の広場で「オトジリ」をやっていた。楽しかった。

参加者 E：補助金がなくなって自立するところまで持っていけなかった。

参加者 D：志学館高校の軽音部とか路上ライブをやっている人とかがまちなかで音楽をやればいい。音楽練習室でやっている人が外でやるようにするとか。

ファシリ：建物の中にいる人を外に出すっていう仕組みを考えたい。

参加者 B：音楽は高ボッチでやっている場合じゃないと。

ファシリ：外でやれないのは何かしらの課題がきつとあるんだと思う。その課題を意識してみしてほしい。なぜできないのか。

参加者 E：WR のステージでタウンサウンズというのを定期的に振興組合でやっていた。簡単な音響セットを買った。街カンには簡易音響セットがある。本格的にやっている人たちには物足りないけど。ちゃんと音響の人を呼んで、となると大がかりになっていってしまう。

ファシリ：それはイベント。イベントと日常は切り分ける必要がある。

参加者 B：まちなかで起きていることは勝手にやっている。やらせたりやってくれって頼んでいるわけじゃない。

参加者 A：アコースティックギターとか置いておけば勝手にやってくれるのかな？

参加者 E：ストリートピアノとかね。

参加者 D：まずはやらせる人が必要。

ファシリ：形になる物のアイデア、自分たちでできる事を考えていきたい。打ち水はすぐにできるけれど、来年の話になってしまうので、季節ごとにやれる何かがあるとか。連続性があり誰でも仕掛けられるような仕組みを考えたい。

参加者 C：進めていく中で、このメンバーみんなが大門商店街の位置関係を把握できているのか疑問。まずは簡単なマップ、どの位置に何があるかを一緒に把握していきたい。

ファシリ：共創会議の場だけでなく、会議のないときでも集まって一緒に行動する時間を作ってほしい。机の上で話してしまいがちだが、一緒に街を歩いてみたら思いつきそう。最初に街歩きをやったらいい。参加者 B さんが街の歴史の話をしてくれていたのもある。そこで落とし込める仕掛けもあるかもしれない。最初にすべきことは「一緒に街を歩いてみよう」かも。場所探しやネタ探しをしていくことになるのかも。場所や仕掛けをみんなで共有していくと、マップを作るときにもベースになるかも。

参加者 D：そこまで行ったら今日付を決めてしまおう。

ファシリ：その街歩きの時にできれば課題感を意識してほしい。

参加者 C：考えている案が現実的にできないとしたら、やる方法や代替案を考えるとか。

ファシリ：お茶会も面白いと思う。でも「やれたらいいよね」って言っているだけじゃ実現しない。できそうな気がすることから現実にしていく。できそうなことを探していくってことが大事。

参加者 F：ABC グループ全部合わせて一緒に街歩きした方が良いのでは。他のグループの人たちとも街歩きの中で話して、協力できることとかを話していけるのでは。

ファシリ：今のこのグループ分けは、ただ興味があること毎に一緒になっているだけだから、他のグループとも一緒になることも、さらに細かいグループになることもあるのかも。

参加者 D：B グループと似たような意見もすでに出ている。

ファシリ：B グループは場所づくり、こちらは仕掛けづくり。

ファシリ：街歩きするなら、具体的なイメージは共有しておきたい。打ち水の他に何かあるか。

参加者 D：中秋の名月が 10 月 6 日。団子と一緒に食べる。WR の広場で中秋の名月を愛

でる会。

参加者 C：商店の前でやるのだとしたら、一店舗だけじゃなくて複数店舗が同時にやらないと面白くない。

参加者 E：地図の話があったが、ゼンリンの地図を白地図的に用意して、みんなで矢印を引っ張って行って書き込みをしておいて、ある程度集まった段階で一緒に歩いてみようぜ！とかはどうか。

ファシリ：街歩きのための事前準備で白地図に書き込むのはいい。地図を見ているだけでも話が膨らむ。

参加者 C：どこどこをつなげるかも明確にわかる。飲食店のまとまりがわかる。

ファシリ：そのマップも残しておきたい。地元の人を書き込んだマップは残しておきたい。

市：市で白地図を用意することはできる。

ファシリ：みんなで一緒に書き込む日を決めて、そのあとに街歩きしてみるとか。建物の中に人がいるとか、いい場所があるとか言っていたけど、そこがどこなのかもマップに書き込んでほしい。最初のアクションは、白地図に書き込んでみる。この後の発表の時に、白地図に書き込みたいとか街歩きとかやりたい人を全体にも募集してみるといい。

参加者 E：思いついたときにパパッと書き込めるようなものは用意できないのか

参加者 A：白地図に何かを書き込む方が街歩きよりも先か。

ファシリ：共通認識を持っている状態で歩いた方がいい。

参加者 A：街歩きの方はイメージができる。企画を作ってもらうために街を案内するか。歩いているとどんどん出てくる。

参加者 B：まちのことを知るための街歩きと、いつもと違う見方をするための街歩きの2種類がある。ただ街歩きをしてしまうと、ただ楽しいで終わってしまう。街歩く時の視点を絞って、休める場所とかテイクアウトできるお店はどこかとか、みんなで同じ視点で見るように共通認識を持っておくことで、結果につながるのでは。

参加者 C：商店目線。買い物をしてもらえる街になってこそ賑わい。住んでいる人と、店主だと街を見るスタンスが違う。

参加者 G：お店に入ってもらって実際の温度感を味わえるような街歩きをしたい。

参加者 C：商店からしたらお買い物してもらうことが日常。何が日常なのか。

参加者 D：視点がみんな違う。それを持ち寄って歩いてみる。打合せしなくても、集まる前にそれぞれが白地図に書けるような視点をみんな持っている。打合せしてしまうと他の人の視点が入ってしまう。

参加者 A：各々が白地図を持ちながら歩けばいいのでは。歩き終わった後にそれぞれが書き込んだマップやその情報を共有してみるとか。

ファシリ：本来の街歩きは、歩いて街を知る、視点を持ち寄る。かつそこからみんなに来てもらうための仕組みをどう仕掛けるかという視点も持っておいてほしい。

事務局：次回の共創会議は12月を予定している。次は今回のようにグループに分かれて個別に話し合う感じではないかも。

ファシリ：皆さんで日を決めてどんどん動いてほしい。

参加者B：街歩きを一回にまとめなくていい。何回でもやればいい。

参加者A：街歩きを大変なものにしてしまっはいけない。あまりコミットしすぎず、気軽にできるくらいの距離感が大事。全員の日程調整は無理だと思うから、日付を決めてしまっこられる人だけ来るというのを、何回か開催すればいいのでは。